



こどもが選ぶこどもの本とは…。ポプラ社のこどもの本総選挙の結果が発表されました。大人が読んでも楽しい本が選ばれています。

- 1位、4位：ざんねんないきもの事典
- 2位、3位、7位：あるかしら書店、りんごかもしれない、このあとどうしちゃう（ヨシタケシンスケ）
- 5位、6位：おしりたんてい（トルル）
- 8位：ぼくらの七日間戦争（宗田理）
- 9位：ふしぎ駄菓子屋銭天堂（廣崎玲子）

本の宅配サービスがスタートしました

ご高齢者や障害をお持ちの方など図書館まで出向くのが難しい方へご自宅まで本をお届けする「本の宅配サービス」が4月よりスタートしました。詳しくはカウンターにお問い合わせください。

行事のお知らせ

- 『趣味と教養の歴史講座』
6月14日（木）、28日（木）
- 『初級古文書講座』
6月9日（土）、23日（土）
- おはなし会（11時から）
『おはなしくまさん』
6月9日（土）
『おおきなかぶのへや』
6月14日（土）
- 上映会
5月19日（土）14：00～

6月の休館日

- 定期休館日
5日、12日、19日、26日（火曜日）
- 月末館内整理日
6月29日（金曜日）

6月17日はとしょかんまつりとふれあいフェス!

新着本から

国体論一菊と星条旗 白井聡



日本近代の前半につくり出され、封建社会だった日本を少なくとも外見的には列強に伍する近代国家へと成長させた装置が「国体」でした。しかしそれは進路を誤り、1945年に一度破滅します。近代後半（現代）の日本もまた、一旦は華々しい発展を経験した後、進路を誤り、破滅へと着々と向かっているように見えます。それはきっと、「国体」の二度目の茶番的な破滅なのでしよう。（著者）

絶滅危惧の地味な虫たち 小松貴

日本には推定上は10万種の昆虫がいるとされている。しかし、そのなかで、すでに滅んだもの、滅びの道を歩み始めているものがある。保護活動も行われているが、チョウやトンボ、ホタルや大型の甲虫ばかりが重要視されており、小さくて地味な虫は、おざなりに扱われている。そこで、日本各地にそれらの虫を探しまわり、発見するまでの格闘、発見した時の喜び、そして虫への溢れる思いを…。

訃報 津本陽さん

「薩南示現流」「下天は夢か」などの剣豪小説、歴史小説で知られる作家、津本陽さんが26日、死去しました。89歳。

和歌山市生まれ。東北大卒。和歌山・太地を舞台に古式捕鯨を描いた「深重の海」で直木賞を受賞。最近作に「叛骨一陸奥宗光の生涯」、「剣豪夜話」、「人生を逆転させた男 高橋晃清」など。